

事業名：「東北マリンサイエンス拠点の形成」

外部有識者委員のコメント

- 各研究がどの程度漁業の復興に活用されているのかわかりにくい。研究成果が復興に向けて一層活用される工夫を検討されたい。
- 成果の目標を明確にすべき。（漁獲量か？）可能な限り具体的に。その成果を測る努力をすべき。
- 論文や講演会と現場での成果の因果関係を明確に。
- 現状ではこの事業の目的に対する効果が不明。
- 復興のゴールである漁獲量等がどのように決まるのかについて測定しようとした形跡がなく、復興予算で実施する必要性がわからない。各研究機関の通常業務との切り分けが明確になる必要がある。
- 責任者の方が永く地元で研究活動を行っていたこともあり、相当の思い入れを持って活動されている。そのため、漁業者の信頼を得て研究成果を漁業に具体的に適用して、一定の成果を上げている。但し、アウトプット指標やアウトカム指標は論文数や講演数となっており、このこと自体は否定しないが、この指標のみでは、論文や講演自体に研究者の関心が行くことになりかねない。
- アウトカム指標については、自治体や漁業関係者からのフィードバックを取得し、その分析を通じて、より復興に役立つ研究の推進に活用されたい。
- 漁業関係者からどう評価されているかという視点が弱いのではないか。単に何回講演したかではなく、それをどう評価されているのかの方が重要。漁業者と共同で実施されている研究の実態をより評価しアピールする姿勢が重要。復興期間後にも持続的に協調関係を維持する基盤を作るという視点も重要。

外部有識者委員のとりまとめ結果

「事業内容の一部改善」

<とりまとめコメント>

- 復興予算で行っていることを踏まえ、どれだけ復興に役立っているかとの観点から、客観的・定量的なアウトカム指標を検討すべき。
- 調査研究の成果について、漁業関係者にフィードバック、アピールする姿勢が必要。
- 復興期間後にも漁業者との協調関係を維持する基盤を作る視点が必要。

・「廃止」	0名
・「事業全体の抜本的改善」	2名
・「事業内容の一部改善」	3名
・「現状通り」	0名